

第4次豊明市都市計画マスタープラン策定委員会(第1回)意見への対応

：策定委員会(第2回)の資料で対応した内容  
 ：策定委員会(第3回)以降の資料で記載を検討する内容

通番	委員	意見等(要旨)	対応方針・考え方
豊明市の現状と課題について			
1	松本委員	現状のデータ分析だけでなく、今後、自動運転が普及し産業構造も変化していくと思うが、将来のまちの姿を踏まえて、バックカスティング的に検討した方が良いのではないかな。	バックカスティングの観点からは、第6次総合計画に定める目指す将来都市像「未来へつなぐ みんなでつくる しあわせのまち とよあけ」を実現するまちづくりの理念、目標を「第2章 豊明市の目指す未来の姿」に記載する。 また、今後確実に訪れる人口減少少子高齢社会の進展や社会情勢の動向を整理し、将来の見通しや20年先のまちづくりに求められる事項を踏まえて、検討を進める。
2	永田委員	日陰の創出といった観点からも緑(街路樹)の必要性を検討してほしい。	日影の創出といった街路樹の機能にも留意し、「第3章 都市計画マスタープラン編」「第3章 緑の基本計画編」に街路樹に関する記載を検討する。街路樹を管理する土木課と現在の課題認識を共有、連携し計画書の記載を検討する。
3	向口委員長	緑については量の確保から質を重視するという考え方にシフトしてきている。街路樹等の維持管理方針は、緑の基本計画で記載する内容だが、居心地の良い場所の創出という面で、都市計画マスタープランにも関連するため、双方の観点から検討を進めていただければと思う。	同上
4	小田桐委員	市内で最も乗降客数の多い前後駅前がさびれているのが、一番の課題と考えている。空きテナントも出ているパルネスの利活用についても力を入れて考えていかないと、にぎわいの創出につながらないのではないかな。	「第2章 豊明市の目指す未来の姿」の拠点の形成方針、「第3章 都市計画マスタープラン編」の土地利用方針(商業系土地利用)で前後駅周辺のまちづくり方針の記載を検討する。
5	向口委員長	マスタープランとしては、主に市全域のことを記載していくことになるかと思うが、市の顔となる交通結節点としても重要な前後駅周辺のまちづくりが進んでいくような記述をお願いしたい。	同上

通番	委員	意見等（要旨）	対応方針・考え方
6	中野委員	市街地に立地する工場事業者は安全性の面からも郊外移転を考えており、店舗等の商業事業者の衰退を防ぐことが必要と考えている。コンパクトな市街地形成については異論はないため、店舗も含めた事業所の適正配置についても考えていただきたい。	「第3章 都市計画マスタープラン編」の土地利用方針（工業系土地利用）で工業用地のまちづくり方針の記載を検討する。 既存の店舗の支援については、同じく土地利用方針（商業系土地利用）に記載を検討する。具体的には、「豊明市小規模企業振興基本条例」に基づく施策等が考えられる。また、都市計画による取組としては人口密度の維持、集積により、施設立地を維持していくことが基本となり、主に「第3章 立地適正化計画編」にて記載を検討する。
7	尾関委員代理出席者	課題①に記載された生活利便施設の立地誘導の必要性には異論はない。一方、地域住民からのニーズだけでは立地が難しい面もあるため、出店する事業者側のニーズ把握と併せて、支援されるとよい。	企業訪問などを通じて「豊明市小規模企業振興基本条例」に基づき施策を検討している。立地を誘導する都市計画的手法などに関しては、「第3章 都市計画マスタープラン編」の土地利用方針にて記載を検討する。
8	原田委員	現在豊明市の人口の27%が高齢者となっており、高齢者の支援のために、施設や病院の立地が必要となっている。また、今後、福祉分野でもAIの活用が見込まれること等、将来のことを見据えて検討いただきたい。	高齢人口が増加する見通しも踏まえた計画書の策定を検討する。 「第5章 計画の運用方針」に、今後の社会情勢の変化を踏まえて、必要に応じ柔軟に計画書を更新していく内容の記載を検討する。
9	向口委員長	将来予測について、計画書に盛り込みづらい内容かと思うが、高齢者が暮らしやすいまちづくりはとても重要なことかと思う。現在働いている世代に豊明市に住み続けたいと思ってもらうためにも、今後の生活の豊かさがイメージできるまちづくりが必要である。	「第2章 豊明市の目指す未来の姿 まちづくりの理念と目標」において、若者から高齢者まで誰にとっても住みやすいまちづくりを目指す内容の記載を検討する。
10	小田桐委員	若い人に向けた魅力的なまちづくりのためには、若い世代が店舗等を出店することも大事かと思う。現在、前後駅周辺に出店したくとも、テナント料が高く難しいという話も聞いているため、補助などにより、出店しやすい施策も検討いただきたい。	昨年度から実施している前後駅前の社会実験においても出店者側のニーズの聞き取りをしている。 また前後駅周辺に限らず、企業訪問などを通じて「豊明市小規模企業振興基本条例」に基づき施策を検討している。立地を誘導する都市計画的手法などに関しては、「第3章 都市計画マスタープラン編」の土地利用方針にて記載を検討する。
11	酒井委員	零細企業向けの工業集積地も必要と考えている。豊明市が住宅都市である特性上、騒音等の問題から工場と住宅が隣接して立地するのは難しいため、今後、零細企業の立地の在り方についても検討していただきたい。	「第3章 都市計画マスタープラン編」の土地利用方針（工業系土地利用）で工業用地のまちづくり方針の記載を検討する。
12	酒井委員	前後駅などは名古屋へのアクセス性も高く、新規出店によるにぎわいの創出は難しいと考えており、定期的なイベントが必要かと思う。	「第2章 豊明市の目指す未来の姿」の拠点の形成方針、「第3章 都市計画マスタープラン編」の土地利用方針（商業系土地利用）で前後駅周辺のまちづくり方針の記載を検討する。

通番	委員	意見等（要旨）	対応方針・考え方
13	酒井委員	10年20年単位でのまちづくりは民間には長すぎると考えており、5年スパン程度のまちづくりについても検討いただきたい。	計画書の中間見直しと個別施策で対応する。
14	向口委員長	マスタープランに記載する内容は、長期的なまちづくりの方針であり、一般的には抽象的な話となる。発言頂いた内容など具体的な対策が必要なものは、アクションプランの策定等により対応するなど、分けて考えるとよい。	同上
15	小田桐委員	前後駅南側に皆瀬川が流れているが、歩道が整備されていないため、駅に直結した歩いて気持ちの良い場所が整備されるとよい。駅周辺のまちづくりと併せて検討いただきたい。	「第3章 都市計画マスタープラン編」、「第3章 緑の基本計画編」双方記載の内容を連携させたうえで、整備済の親水空間や道路、堤防等の維持管理や活用方針について記載を検討する。
16	小田桐委員	店舗などの出店を促進するために、用途地域の変更などもあわせて検討してはどうか。	立地を誘導する都市計画的手法に関しては、「第3章 都市計画マスタープラン編」の土地利用方針（商業系）などにおいて記載することを検討する。
17	向口委員長	歩きやすい場所の再生、ウォークアブルは、まちづくりの大きなキーワードとなっている。単に歩道を整備するだけではなく、沿道の居住や店舗の出店も含めて居心地の良い場所を創出する意識を持っていただきたい。豊明市にも魅力的な場所は多くあることを認識し、こうした既存の資源をうまく活かしたまちづくりも必要である。	「第3章 都市計画マスタープラン編」都市施設整備方針（道路）等にて、ウォークアブルな視点を踏まえた記載を検討する。
18	天谷委員	名古屋岡崎線の沿道に柿ノ木工業団地が整備され、次はどこで産業用地を確保するかという、将来都市構造図における、市街化調整区域の青色の産業ゾーンになると思う。	産業用地については課題④で記載している通り、今後、土地利活用の熟度が高まった場合には、新たな産業用地を検討していくこととする。また、立地する企業側だけでなく、地権者意向も重要であり、現時点でこうした意向調査はしていないため、今回の計画書には具体的な記載はできない。
19	天谷委員	産業用地の確保は必要かと思うが、計画的に確保していただくとよい。具体的にはロードサイド型店舗が開発許可により立地してしまう懸念があるため、規制誘導手法など都市計画でうまく対応できるよう検討を進めるとよい。	土地利用の規制誘導方針、手法については「第3章 都市計画マスタープラン編」の土地利用方針（産業系）（集落地、農地）に記載を検討する。

通番	委員	意見等（要旨）	対応方針・考え方
20	向口 委員長	今後は市街化区域内に存在する空き家の問題等、既存ストックをうまく循環させる必要がある。また、今後、人口減少が進行する中で住宅需要が高い状況が続くかどうかは予測が難しい。	土地区画整理事業の完了後は、空き家など既存ストックを活用しつつ基本的に現在の市街化区域、人口密度を維持する方針である。当該内容は「第3章 都市計画マスタープラン編 将来計画フレーム」、「第3章 立地適正化計画編誘導方針」へ記載する。
豊明市の将来都市構造図について			
21	松本 委員	将来都市構造図はバックキャスト思考で20年後の見通しを踏まえて検討いただきたい。	提示する順番が前後したが、計画書の流れは、以下となる。したがって、バックキャスト思考により、まちづくりの理念と目標を設定し、それを実現する将来都市構造図を位置づけるといった流れとなる。  第2章 豊明市の目指す未来の姿 ・将来都市像（第6次豊明市総合計画） ・まちづくりの理念と目標 ・将来都市構造
22	丸山 委員の代理出席者	高齢化、人口減少が進む中で、豊明市は人口密度が高いが、将来の人口見通しを踏まえて現在の市街地規模で問題ないか確認するとよい。	「第3章 都市計画マスタープラン編 将来計画フレーム」に記載する人口フレームを算出する過程で、現在の市街地規模が妥当か確認を行う。